

VIPO年間活動報告書 2009

ACTIVITY REPORT 2009
2009.4.1 → 2010.3.31

理事長挨拶

理事長 迫本淳一



映像産業振興機構（VIPO）は、映画、放送番組、アニメーション、ゲーム、音楽等の日本のコンテンツ産業の振興のため、知的財産戦略本部の支援を受け、コンテンツ産業の制作に携わる企業、団体や当機構の活動に賛同する企業、団体などを会員として、2004年12月に設立されました。その後、コンテンツ産業振興に関わる様々な事業を展開して参りましたが、おかげさまで2010年度をもちまして6年目を迎えることとなり、この度VIPOとして初めての年間活動報告書を作成させて頂くことになりました。この年間活動報告書にてVIPOの活動へのご理解を更に深めて頂ければ幸いです。

VIPOでは、省庁、関連団体、学校、民間企業、個人、など様々な関係の方々のご支援、ご協力を得て、人材育成、海外市場開拓等の様々な事業を展開しております。昨年も、短編映画作品制作による若手映画作家の育成プロジェクト、メディア・コンテンツ業界を目指す学生を対象とした就職セミナー、シナリオアナリスト養成セミナー、アジアにおける日本映画上映会の実施、コンテンツ産業施策の提言に向けた政策検討委員会、日本のコンテンツポータルサイト「ジャパン・コンテンツ・ショーケース」の運営などを行って参りましたが、いずれも、着実な成果を残すことができました。

また、主に海外に向けた日本のソフトパワーの一層の認知拡大、振興を目指し、2007年に開始された「JAPAN国際コンテンツフェスティバル（コ・フェスタ）」では、3年目となる昨年は、パリ「JAPAN EXPO」へのブース出展、初の海外記者会見の開催などを通じて、国内外から大きな注目を浴び、日本のソフトパワーの実力と可能性を世界にアピールしました。財団法人全羅南道文化産業振興院（JCIA）との業務提携覚書締結の調印により、韓国のコンテンツ団体との提携も韓国映画振興委員会（KOFIC）、韓国コンテンツ振興院（KOCCA）などに続き4団体となり、日韓のコンテンツ振興機構の一層の協力体制により、両国コンテンツ産業の発展が成果としてより具体化されることも今後期待されます。

昨年は、政権交代など、日本社会・経済にとって大きな転換期となる1年となりましたが、前述のような実績を残した2009年度は、2010年度を迎えるにあたり、大変大きな意味を持つ1年になったと考えております。

コンテンツ産業は、国際社会における日本の存在感を高めるための文化外交の柱でもあり、国際競争力を強化し、これからの日本の成長戦略の一翼を担っていく可能性を秘めた産業分野のひとつです。日本のコンテンツが世界に向けてマーケットを拡大し、今まで以上に夢と感動を与えることができるよう、当機構は取り組ん参ります。

VIPOは、今年度も、コンテンツ産業における人材育成や市場開拓、海外振興などの様々な事業活動を通じて、官民、コンテンツ分野間、省庁間の連携を強化する役割を担い、そして、日本の文化・コンテンツ産業の発展、振興に貢献できるよう努めて参る所存でございます。今後とも当機構へのご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2. 理事長挨拶
3. 「政策検討委員会」活動

人材育成

4. ndjc：若手映画作家育成プロジェクト
5. VIPO人材育成基盤プログラム
人材育成基盤セミナーシリーズ#2
「シナリオアナリスト養成セミナー」(2009年10月期)
シナリオアナリスト認定式
「キャラクターメイキング&アナリスト養成セミナー」(導入編)
「ザ・ムービービジネスブック 第3版」日本語版出版記念セミナー
6. メディア・コンテンツ業界就職セミナー
VIPOインターンシップ
AFIへの留学推薦者の斡旋

市場開拓

- 7-8. JAPAN国際コンテンツフェスティバル(愛称コ・フェスタ)
9. 平成21年度アジアにおける日本映画特集上映事業
第6回韓国 日本映画上映
「2010年トルコにおける日本年」記念
「日本映画祭ニューシネマ2010」
第14回釜山国際映画祭「ジャパンレセプション」
韓国コンテンツ振興団体
全羅南道文化産業振興院(JCIA)と業務提携

その他

10. コンテンツ・ポータルサイト運営協議会
「2009年日本放送映像コンテンツグローバルマーケティングセミナー」
「日韓ビジネスキャンパス2009 in 済州島」(日韓共同製作セミナー)
VIPO京都事務所開所 京都フィルムコミッション推進事業
「京都映画・映像企画市」実施
11. 平成21年度通常総会・幹事理事会・理事会
平成21年度事業報告(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)

12-13. VIPO INTERVIEW

- 株式会社フジテレビジョン 取締役 編成制作局長 ^{すずき かつあき} 鈴木克明氏
角川シネプレックス株式会社 代表取締役社長 ^{きた おともみち} 北尾知道氏
有限会社ジャパンスタイルシステム代表 ^{かわべ たくやの ますけ} 川邊祐之亮氏
東映アニメーション株式会社 TVアニメーション「ドラゴンボール改」
プロデューサー ^{おの けいすけ} 小原康平氏
株式会社アールグレイフィルム プロデューサー ^{なにくちひろ ます} 谷口広樹氏
武正晴監督
株式会社スクウェア・エニックス ドラゴンクエストシリーズ
エグゼクティブプロデューサー ^{ふ せき けい} 二宅有氏
※VIPOHP公開時の役職名にて掲載

14. 映像産業就職動向
15. VIPO年間活動スケジュール(2009年度)

「政策検討委員会」活動

「政策検討委員会」は、VIPO理事長・幹事理事会の諮問機関であり、VIPOの活動のあり方について、検討を行う場である。09年度は、08年度の検討を引継ぎ、本会、人材育成分科会、正規流通分科会の3構成で、議論が行われた。その議論の成果については、「映像産業のための文化産業戦略」としてまとめられている。その要旨については以下のとおりである。

【「映像産業のための文化産業戦略」要旨】

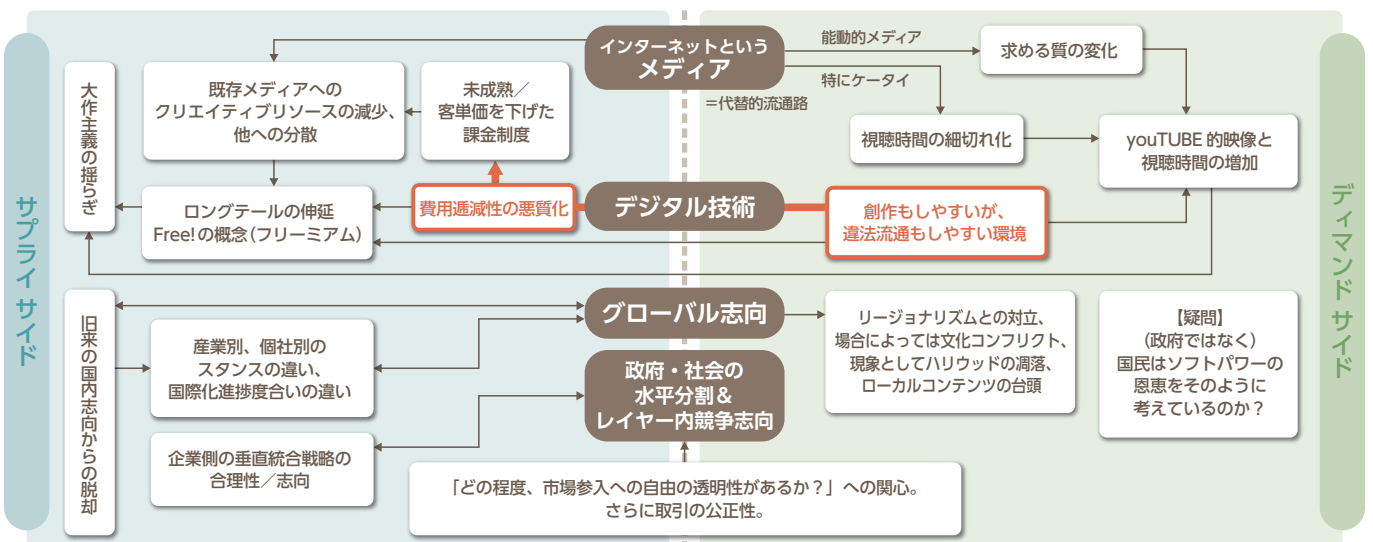
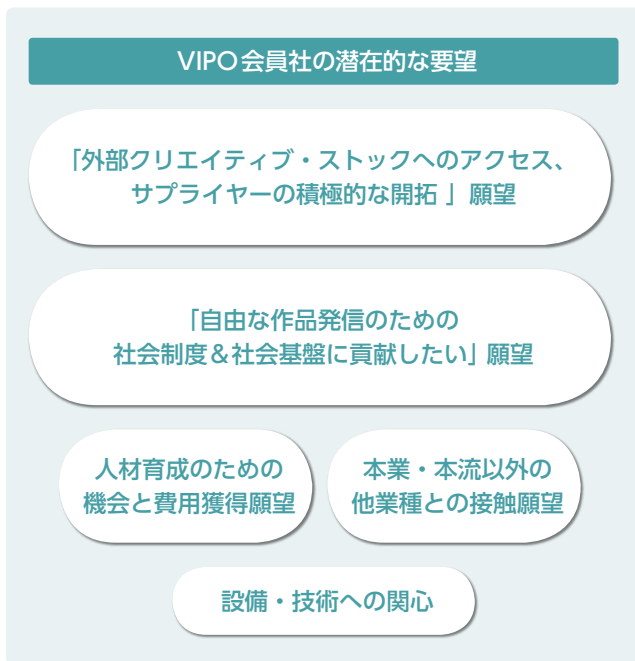
VIPO会員社の期待は、主に資源獲得への支援と出来上がった作品のB2B出口支援に関する事項に高い期待がある。企画や制作そのものは、事業者が最も創作の自由を確保したい領域でもあることから、顕在化したニーズとして表れていないが、人材育成への期待という形で間接的な表れ方をしている。ここから、我々が最も意識しなければならないことは、創作の自由を高めるような資源や出口の確保であり、資源や出口の支援が創作の自由とトレードオフになってはいけないことである。

このうち出口に絡む長期の環境変化として、技術進歩と政策的意図によって、出口となる伝送路が増やされてきていることがあげられる。最近でいうならば、その代表例はインターネットである。こうした新媒体に対しては、既存のコンテンツを流用するというよりは、インターネットという伝送路特性にあった新しい類のコンテンツに、既存事業者がどの程度、関与していけるかが課題であり、それは新しいビジネス・モデルやプラットフォームを構築する事業構想力が求められている。一方、資源獲得に関しての社会支援制度については、依然、欧米諸国や韓国に比して、制度として、我が国は追いついていない状態にある。

我々が長期的視点で、最も解決しなければならない問題は、振興事業の継続性の確保である。継続して支援事業を行う根拠は、映像産業が持つ波及効果の時間・空間を越えた広範な広がり、事業構造（極少数の勝ち組作品と大多数の零細な作品構成を生みやすい費用構造）にあると考えるからである。

さて官民双方が、コンテンツ海外展開や人材育成に重点課題を置いて久しい。VIPOも「市場開拓」と「人材育成」を二つの事業の柱に置いている。本質的に、いずれの事業も2-3年程度では本質的な成果の発生が期待しにくい、長期的対応が必要な課題でもある。

事業方針として、過年度よりその必要性を訴えている税制による振興については、より技術的な議論に入ること、人材育成については昨年度策定したフレームワークに基づき、国際的なプロデューサー育成のためのカリキュラムや運営体制の充実を図ること、(違法流通対策を含む) 正規流通の促進については、引き続き検討を進めることを提言する。



人材育成

ビジネス展開に精通した、また、国際展開を担うことのできる人材の育成を目的に学生からコンテンツ系の企業人や独立系の社会人に至るまで就職・人材育成基盤セミナーなどの各種セミナー、短編映画製作など幅広く行っている。

ndjc：若手映画作家育成プロジェクト

このプロジェクトは、文化庁の委託を受けて2006年度よりスタートしたもので、優れた若手映画作家を対象に、本格的な映像制作技術と作家性を磨くために必要な知識や技術を継承するためのワークショップや製作実地研修を実施すると同時に、作品発表の場を提供することで、次代を担う長編映画監督の発掘と育成を目指している。



ndjc公式サイト
<http://www.vipo-ndjc.jp>

今年度は、応募者の中から15作家がワークショップに参加。さらにその中から5作家が、最終課題である製作実地研修に参加し、シナリオ開発や35ミリフィルムでの撮影を必須とした短編映画制作を行った。その後各地で完成作品の合評上映会を開催し、多方面の方々から講評をいただいた。これまでに完成した作品と併せて、今後も引き続き発表機会を提供していく。



ndjc2009実施概要

- 作家の公募／5月26日(火)～6月26日(金)
すでに相応の映像製作実績と評価を有する若手映画作家を対象に、映画関係団体等からの推薦を受付
- ワークショップ／7月26日(日)～8月9日(日)
一定の条件の下で、共通のテーマに沿った完成尺5分以内の作品を制作
- 製作実地研修／9月～1月
35ミリフィルム撮影による25分以上30分以内の劇映画作品を制作
- 合評上映会・講評会／2月～3月
2月25日：東京会場(新宿バルト9)
プロジェクト検討委員による講評会
3月 3日：大阪会場(シネ・ヌーヴォ)
3月 4日：脚本指導講師による講評会
3月10日：札幌会場(スガイシネプレックス札幌劇場)

これまでの製作実地研修参加作家と完成作品

ndjc 2009



浅野晋康
『きみは僕の未来』



金井純一
『ペダルの行方』



清水艶
『ホールイン・ワンダーランド』



岨手由貴子
『アンダーウェア・アフェア』



遠山浩司
『そぼろごはん』

ndjc 2008

熊谷まどか 『嘘つき女の明けない夜明け』
田中智章 『花になる』
中野量太 『琥珀色のキラキラ』
吉井和之 『くだん』
和島香太郎 『第三の肌』

ndjc 2007

郡司掛雅之 『天国のバス』
児玉和土 『さよなら、ジョージ・アダムスキー』
タテナイケンタ 『直下型の女』
平林勇 『BABIN』
山口智 『UFO食堂』

ndjc 2006

岡太地 『屋根の上の赤い女』
児玉徹郎 『ヒトヲモウ』
佐藤克則 『trash words』
真田幹也 『Life Cycles』
中尾浩之 『Line』
野口照夫 『FLYING BABY』
村松正浩 『けもののがにげる』
柳川薫平 『さちとチョコ』

VIPO人材育成基盤プログラム

VIPOでは2008年4月より「政策検討委員会 人材育成分科会」を設置し、VIPOの今後の人材育成事業の在り方を検討してきた。その中でコンテンツ業界で働く人たちがその能力を最大限発揮できる環境と仕組みを作り、将来の人材を育成することを目的に東京工科大学金子教授と共同開発した「人材育成基盤プログラム」を2009年度より実施。

本プログラムでは「コンテンツ領域」「ビジネス領域」「技術領域」の3つの領域を設定して今後もカリキュラムの充実を進めていく。2009年度に実施したセミナーは次の通り ※開催順

- 「ザ・ムーヴィビジネスブック 第3版」日本語版出版記念セミナー
- 人材育成基盤セミナーシリーズ#2「シナリオアナリスト養成セミナー」(2009年10月期)
- 「キャラクターメイキング&アナリスト養成セミナー」(導入編)

「ザ・ムーヴィビジネスブック 第3版」 日本語版出版記念セミナー

本セミナーは、アメリカ南カリフォルニア大学シネマティックアーツ学部のジェイソン・E・スクワイヤ教授がまとめた『The Movie Business Book 3rd Edition』の日本語版『ザ・ムーヴィビジネスブック 第3版』が完成したことにより実現。60名を超える聴講者があり、ジェイソン教授より「ハリウッドの映画産業とそのビジネス」について映画ビジネスに関わるクリエイターの役割、資金調達、マネージメント等グローバル化する映像産業に欠かす事のできない知識や経験談について講義を頂いた。



開催日時：2009年5月14日(木) 15:00~17:00
場 所：CG-ARTS協会会議室(東京都中央区 ※CG-ARTS協会様のご協力を頂きました)
主 催：VIPO 講 師：Jason E. Squire コーディネーター：金子 満教授
テ ー マ：ハリウッドの映画産業とそのビジネス

「キャラクターメイキング& アナリスト養成セミナー」(導入編)



シナリオアナリスト養成セミナーに続く本セミナーは、デジタル化された資料とソフトウェアを用いて、俳優やアニメの役づくりと形づくり、その活用方法を紹介するものです。当日はゲームやアニメ、映画、TV、広告など様々な業界から、70名の参加があった。

VIPOでは、この導入編セミナーの成果を元に、2010年度中に本セミナーのフルバージョンを開催する予定。

開催日時：2010年3月23日(火) 15:00~17:00
場 所：青山学院大学 青山キャンパス 主 催：VIPO
講 師：金子満 教授(東京工科大学)、近藤邦雄教授(東京工科大学)

人材育成基盤セミナーシリーズ#2 「シナリオアナリスト養成セミナー」(2009年10月期)



2009年3月11日開催のシナリオ分析及び作成のためのパイロット版「人材育成基盤セミナー」からの発展型として実施。

本セミナーはストーリー性を持つ全てのエンターテインメントコンテンツの制作指示書としてのシナリオについて、市場性の観点から論理的に分析・評価することのできる人材の育成を目的としたもので、第1期となった今回のセミナーでは、アニメーション、映画、ゲーム、テレビ、CMなど広範にわたる業種から、最大定員数である20名の参加があった。

- シナリオアナリスト養成セミナー(2009年10月期)
開催日：①2009年10月1日、②10月8日、③10月15日、④10月29日、
⑤11月5日、⑥11月12日(全て木曜日) 午後5時~午後7時
会 場：中央区立ハイテクセンター研修室(東京都中央区)
主 催：VIPO 主任講師：金子満教授(東京工科大学)
受 講 料：一般60,000円 VIPO会員企業・団体30,000円*
* NPO法人映像産業振興機構の会員企業・団体、および会員団体の加盟各社に所属する方。

「シナリオアナリスト養成セミナー」(2009年10月期) 初のシナリオアナリスト認定結果発表

本セミナーを履修の上、所定の課題を期日までに提出頂いた方々を対象に、審査の上、以下の9名の方々にVIPOによる初のシナリオアナリスト認定証を発行した。



会社名 所属・役職 氏名(会社名50音順・敬称略)

株式会社エッジワークス 代表取締役 脚本家 山野辺一記
株式会社角川マーケティング 番組情報部 解説グループ 森田 敏
株式会社サクセス 開発部 企画グループ 塩田さとみ
株式会社ジューピターテレコム 放送・制作本部 東京メディアセンター長 清水泰雄
松竹株式会社 編成部映像企画室プロデューサー 野地千秋
テクモ株式会社 商品企画部 青柳洋之
テクモ株式会社 プロデュースチーム 沼田やすひろ
株式会社電通 第5クリエイティブ部 CMプランナー 屋野 広
日本映画衛星放送株式会社 営業部 中野雄高

- シナリオアナリスト認定式
開催日：2010年2月18日(木)
会 場：VIPO第一会議室(東京都中央区)
出席者：認定者9名、金子満教授、VIPO 迫本淳一理事長、石川事務局長他



TOKYO
東京

2011年3月卒予定のコンテンツ業界を目指す学生に大学生・大学院生を対象にメディア・映像業界に対する正しい業界知識・情報を発信し、誤解のない企業選択の助けになることを目的に実施。VIPO会員企業を中心に協力頂き、各企業ごとに人事担当者より、企業解説及び、採用に関する説明を頂き、参加企業21社に対し、約3000名の学生が参加した。セミナーの主な内容は業界の人材ニーズ、業界別テーマセミナー、各社採用方針のプレゼンテーション、質疑応答に加えVIPO会員企業やメディア・コンテンツ業界企業採用パンフレット配布などを行った。

開催期間：2009年9月27日(日)、10月10日(土)、11日(日)

◎9月27日(日)放送業界

参加企業：日本放送協会、日本テレビ放送網株式会社、株式会社TBSテレビ、株式会社フジテレビジョン、株式会社テレビ朝日、株式会社テレビ東京、社団法人全日本テレビ番組製作者連盟

◎10月10日(土)映画業界

参加企業：松竹株式会社、東映株式会社、東宝株式会社、角川映画株式会社、日活株式会社

◎10月10日(土)音楽業界

参加企業：エイベックス・グループ・ホールディングス株式会社、タワーレコード株式会社、株式会社ポニーキャニオン、株式会社ソニー・ミュージックアクシス

◎10月11日(日)広告・CM制作業界

参加企業：株式会社博報堂、株式会社博報堂プロダクツ

◎10月11日(日)アニメ業界

参加企業：株式会社A-1Pictures、株式会社テレコム・アニメーションフィルム、株式会社スタジオ雲雀

VIPOインターンシップ

「映像業界での生きた体験を求める[学生や学校]」と「人材育成に意欲があり、多くの映像作品が必要な[制作者や企業]」のニーズとシーズを結び取組みと位置付けてコンテンツ企業にてインターン希望学生をVIPOが仲介し、企業へ紹介。

参加学生にコンテンツの製作現場を実体験してもらい、今後の糧とすることを目的に実施している。



<http://vipo-intern.jp/>



OSAKA
大阪

例年東京だけの開催であったが、特に関西地区の学生より開催要請が多数あったため、2009年度は、2011年3月卒予定のコンテンツ業界を目指す学生に大学生・大学院生を対象に大阪でも開催した。参加企業17社に対し、約2,400名の学生が参加した。

開催期間：2009年10月27日(火)、28日(水)

◎10月27日(火)映画業界

参加企業：松竹株式会社、東映株式会社、東宝株式会社、角川映画株式会社、日活株式会社

◎10月27日(火)音楽業界

参加企業：エイベックス・グループ・ホールディングス株式会社、タワーレコード株式会社、株式会社ポニーキャニオン、株式会社ソニー・ミュージックアクシス

◎10月28日(水)放送業界

参加企業：日本放送協会、日本テレビ放送網株式会社、株式会社フジテレビジョン、株式会社テレビ朝日、株式会社テレビ東京、社団法人全日本テレビ番組製作者連盟

◎10月28日(水)アニメ業界

参加企業：株式会社A-1 Pictures

AFI(American Film Institute)への留学推薦者の斡旋

VIPOとAFI Conservatory (コンサバトリー：専門職大学院課程)は、2006年以来友好的な関係を続けており、東京でのセミナーの開催やコンサバトリーへの日本人留学生の推薦などを行ってきている。2009年度には、1名のコンサバトリーへの推薦を行い、無事に合格を得、二人目のVIPO推薦者となる予定されている。またこれまでのVIPO推薦者には、AFIの判断による依田スカラシップが用意されてきた。



※“AFI Conservatory”は、将来、世界の映画、テレビ業界で主要な役割を担うプロフェッショナルの養成機関として世界的に知られている。“AFI Conservatory”の学生たちは映画・テレビ業界で実際に活躍するプロフェッショナルたちとの共同作業を通して、映像によるストーリーテリングを集中的に学ぶ。“AFI Conservatory”は1969年の創立以来、3,000人以上のアーティストを育成してきた。

詳細はVIPOによるAFI紹介ページ ↓
<http://www.vipo.co.jp/AFI>

※6月中旬公開予定

市場開拓

我が国コンテンツの国際展開とマルチユースのための環境整備を行い、映像コンテンツ市場拡大を目指して、JAPAN国際コンテンツフェスティバル(愛称コ・フェスタ)、海外での日本映画の上映会の開催、国内外のコンテンツ関連団体との連携協力など各種事業を実施

JAPAN国際コンテンツフェスティバル

VIPOは2007年より経済産業省の受託事業として「JAPAN国際コンテンツフェスティバル(愛称コ・フェスタ)の実行本部を運営している。3年目となる2009年度は「すばらしい」をテーマに9月24日(木)～10月28日(水)の35日間にわたって開催し、従来のゲーム、アニメ、マンガ、キャラクター、放送、音楽、映画といったコンテンツ産業に、ファッション、デザイン等コンテンツと親和性の高い産業が加わり、幅広い日本のコンテンツの発信イベントとなった。

総来場者数は過去最高となる約112万人を動員。(オフィシャルイベント、オリジナルイベント、パートナーイベントの総合計)



JAPAN
INTERNATIONAL
CONTENTS
FESTIVAL



<http://www.cofesta.jp/>

オフィシャルイベント

東京ゲームショウ2009	9/24(木)～27(日)
日本ゲーム大賞2009	9/24(木)～27(日)
KYOTO Cross Media Experience (KYOTO CMEX) 2009	9/26(土)～10/4(日)
CEATEC JAPAN2009	10/6(火)～10(土)
東京コンテンツマーケット2009	10/14(水)～16(金)
ライセンス・アジア2009	10/14(水)～16(金)
ジャパン・アニメコラボ・マーケット2009 (JAM2009)	10/15(木)～18(日)
秋葉原エンタまつり2009	10/17(土)～25(日)
第22回東京国際映画祭	10/17(土)～25(日)
第6回文化庁映画週間 - Here & There	10/17(土)～23(金)
国際ドラマフェスティバル in TOKYO 2009	10/19(月)～22(木)
第6回東京アジア・ミュージックマーケット (6thTAM)	10/19(月)～23(金)
第9回「東京発 日本ファッション・ウィーク」	10/19(月)～25(日)
TIFFCOM2009 ～ Marketplace for Film & TV in Asia	10/20(火)～22(木)
ジャパン・ロケーション・マーケット2009	10/20(火)～22(木)
第26回ATP賞テレビグランプリ2009	10/22(木)
デジタルコンテンツEXPO 2009	10/22(木)～25(日)
第36回「日本賞」教育コンテンツ国際コンクール	10/22(木)～28(水)

グランドセレモニー

日程：2009年9月29日(火)

会場：帝国ホテル

内容：各コンテンツ業界や省庁・団体・企業、およびプレス関係者が一堂に会し、交流を深めた。トップコンテンツの紹介映像や3D映像を上映。



東京メトロ銀座線車両広告

東京メトロの協力を得て、東京メトロ銀座線とコ・フェスタ2009のコラボレーション企画「CoFesta on SUBWAY」を実施。コ・フェスタ期間中に、銀座線沿線で様々なコ・フェスタイベントが繰り広げられる中、コ・フェスタを紹介する列車が運行した。

期間：9月29日(火)～10月27日(火) 仕様：銀座線1編成(6車両)



海外展開

2009年度は総合的日本ブランド発信イベントとしての機能をさらに拡充・強化するために、海外で行われるイベントに積極的に出展。アジアだけでなく、ヨーロッパや南米にも出展し、日本のコンテンツを紹介。

第10回 JAPAN EXPO

日程：2009年7月2日（木）～5日（日）

会場：パリノール ヴィルパント展示会会場

内容：最新のJAPANコンテンツを紹介する体感型ショーケースを展開。人気アーティストのミニステージやPV放映、楽曲の試聴コーナー、話題のアニメの映像紹介やゲームの試遊、人気漫画家の直筆サイン&イラスト展示、コ・フェスタのダイジェスト映像の上映などを実施し、最新JAPANコンテンツの情報提供とコ・フェスタの認知促進およびアンケートによる情報収集、コ・フェスタ2009の記者発表会、日仏交流会を実施。



Anime Festival Asia 2009

日程：2009年11月21日（土）・22日（日）

会場：シンガポール
サンテック国際会議展示場

内容：ブース出展し、最新ジャパンコンテンツの情報提供、ダイジェスト映像の上映やアンケート調査を実施。



コ・フェスタ in ブラジル

日程：2010年3月11日（木）～14日（日）

会場：ブラジル・サンパウロ Ibirapuera Bial

内容：初の海外単独開催。プレスカンファレンスやビジネスセッション、及び最新コンテンツの紹介、人気歌手のステージイベントを実施。



香港 International Film & TV Market

日程：2010年3月22日（月）～25日（木）

会場：香港コンベンション&
エキシビションセンター

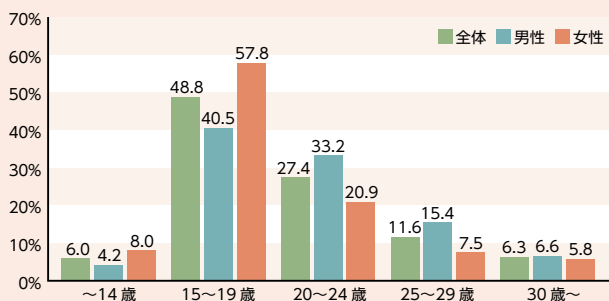
内容：TIFFCOMと共同ブース出展し、コ・フェスタの各イベントを紹介。バイヤーを中心に意見交換を行った。



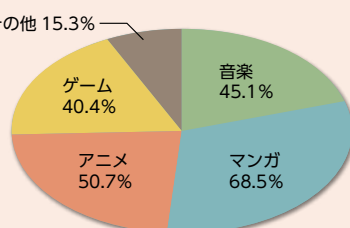
JAPAN EXPO と Anime Festival Asia(AFA) のアンケート

JAPAN EXPO

Q.年齢及び性別

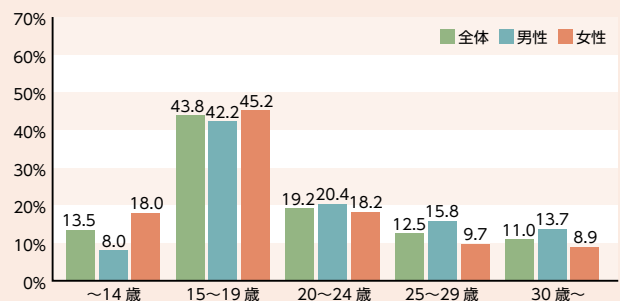


Q.興味ジャンル

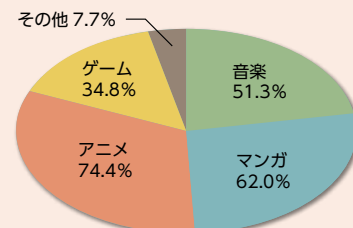


Anime Festival Asia(AFA)

Q.年齢及び性別



Q.興味ジャンル



平成21年度アジアにおける日本映画特集上映事業

アジア諸国における日本文化への理解や親しみの深化を図る目的で実施されている、文化庁事業「平成21年度アジアにおける日本映画特集上映事業」を受託し、韓国（ソウル）とトルコ（イスタンブール）において、日本映画上映会を開催した。

第6回韓国 日本映画上映

「第6回韓国 日本映画上映」(韓国名:メガボックス日本映画祭)を2009年11月11日(水)から15日(日)までの5日間、ソウルにて開催し、約3500人の観客が来場。今年の上映のタイトルは「日本映画:情熱の時代」。開幕作品「風が強く吹いている」他新作10作品と「シリーズ映画」2シリーズから各3作品計6作品を上映した。開幕作品の大森寿美男監督、「平成ガメラシリーズ」の金子修介監督他9名の監督が訪韓し、舞台挨拶及び上映後には観客との交流会を行った。

また、「情熱」は映画のキーワード!?!と題して最終日15日(日)に行われたシンポジウムには、日本側から金子修介監督、韓国側からは、若手監督リュ・スンワン氏、クラジクワイの女性ボーカル、ホラン氏が参加した。司会は上映会プログラマーを務める寺脇研氏。



開催期間：2009年11月11日(水)～15日(日)

会場：メガボックス・コエックス (韓国・ソウル特別市江南区)

主催：VIPO

共催：株式会社メガボックス、文化庁、国際交流基金ソウル日本文化センター

参加監督：大森寿美男、小沼雄一、金子修介、熊澤尚人、古波津陽、濱口竜介、

早瀬憲太郎、光石富士朗、村公正浩(50音順、敬称略)

第14回釜山国際映画祭「ジャパンレセプション」

第14回釜山国際映画祭において、10月12日(月)、ジャパンレセプションが海雲台パラダイスホテルにて開催され、チョ・ヒムン韓国映画振興委員会(KOFIC)委員長、キム・ドンホ釜山国際映画祭執行委員長、映画祭公式上映作品の関係者の中から行定勲監督など、日韓をはじめ各国の映画関係者約250名が参加した。ジャパンレセプションは、日韓及び世界各国の映画関係者の交流の場として毎年行われ今回5回目となる。

開催日：2009年10月12日(月) 会場：海雲台パラダイスホテル(韓国釜山)

主催：ユニジャパン、文化庁、VIPO



「2010年トルコにおける日本年」記念 「日本映画祭ニューシネマ2010」

日本とトルコの修交120年を記念して開催される「2010年トルコにおける日本年」の冒頭のイベントとして1月15日(金)から17日(日)までの3日間、トルコ・イスタンブールにおいて「日本映画祭ニューシネマ2010」を開催した。

上映作品は現代の日本の文化・社会を紹介するに最も適すると思われる、トルコでは初上映となる7作品を選定して上映した。開幕作品「ディア・ドクター」の西川美和監督を招聘し、開幕式・舞台挨拶及び関係者との交流会を行ったほか、現地マスコミの取材による「日本年」の周知活動も展開した。また、来場者アンケートを実施し、今後のトルコにおける日本映画上映の資料として「2010年トルコにおける日本年」実行委員会に提供した。

開催期間：2010年1月15日(金)～17日(日)

会場：シネボナス・マチカ・G-モール(トルコ・イスタンブール市新市街)

主催：VIPO 共催：文化庁

後援：「2010年トルコにおける日本年」実行委員会

上映作品：「ディア・ドクター」(開幕作品)、「山桜」、「明日の記憶」、「ぐるりのこと」、

「あしたの私のつくり方」、「夕風の街 桜の園」、「劔岳 一点の記」



韓国コンテンツ振興団体 全羅南道文化産業振興院(JCIA)と業務提携

VIPOと財団法人全羅南道文化産業振興院(JEONNAM CULTURE INDUSTRY PROMOTION AGENCY :

JCIA)は映像コンテンツ産業の活性化および相互の協力強化を目的として、業務提携覚

書締結の調印を行った。今後両団体は相互利益のために協力関係を維持し、日韓両国の映像コンテンツ産業の様々な分野での交流活動の促進、情報交換、カンファレンス・展示などの協力等を行っていく。

開催日時：2010年3月30日(火) 午後3時40分～

会場：都市センターホテル(東京都千代田区)

調印者：VIPO 迫本淳一理事長およびJCIA キム・キフン院長



その他

海外のコンテンツ関連機関との交流を通じたセミナーやシンポジウムなどの事業、日本のコンテンツの情報を国内外に発信するためのポータルサイトの運営、京都でのフィルムコミッション推進事業など日本のコンテンツ業界に貢献すべく各種活動を展開

コンテンツ・ポータルサイト運営協議会

VIPOは、日本のコンテンツ情報を国内外に発信するためのポータルサイト「ジャパン・コンテンツ・ショーケース」(URL: <http://www.japancontent.jp>) の運営を行うコンテンツ・ポータルサイト運営協議会の事務局を担当している。このサイトは、日本の様々なエンターテインメント・コンテンツに関する情報を国内外に向けて情報発信するWEBサイトとして、2007年6月に開設されたもので、2009年5月には、協議会発足から3年目の節目を迎え、サイトの本格運用を目指して全面刷新を実施した。

現在、協議会は、各業界のコンテンツ事業者の正会員24社、賛助会員6社で構成され(2010年3月31日現在)、サイト運営や情報交換を目的とした正会員による月例の定例会議を実施。また、現在の協議会会長は石坂敬一日本レコード協会会長が、協議会主査は日本写真著作権協会の瀬尾太一常務理事が務めている。



<http://www.japancontent.jp>

2009年日本放送映像コンテンツ グローバルマーケティングセミナー

韓国のコンテンツ業務従事者を対象に、日本のコンテンツ業界の第一線で活躍する講師陣を迎え、日韓両国のニューメディアビジネスや交流が一層活発になることを目的とし実施。



開催期間：2009年6月1日(月)～5日(金)
会場：赤坂アークヒルズ12F会議室[伊勢]、関連機関の現場参観
主催：韓国コンテンツ振興院(KOCCA)、VIPO
テーマ：「日本ニューメディアグローバルビジネス課程」

日韓ビジネスキャンパス2009 in 済州島 (日韓共同製作セミナー)



日韓共同製作へ意欲ある両国プロデューサーを対象に企画プレゼンテーション、セミナー、交流の場を提供。活発な意見交換が行われ、日韓映画界の制作を取り巻く状況等が紹介された。

開催期間：2009年7月14日(火)～17日(金)
場所：韓国済州島
プログラム：①参加プロデューサーによる企画プレゼンテーション ②アドバイザーによるセミナー ③アドバイザーとの個別ミーティング ④参加プロデューサー同士の個別ミーティング
参加者：プロデューサー日韓各5名、アドバイザー6名(日本2名、韓国4名)

VIPO京都事務所開所 京都フィルムコミッション推進事業

京都・太秦にある東映及び松竹の本格的な映画撮影所、また周辺に立地する映像産業の集積を最大限に活用し、国内外の映画や映像製作などの誘致活動を推進。また、映像を含め、ゲーム、マンガ、アニメ、伝統芸能など様々なコンテンツ産業の人材育成を進め、「コンテンツ産業のまち・京都」を国内外へ発信していく。



- 活動内容**
- 海外をはじめ国内外の映像製作に関する様々なニーズに対応
 - ※京都府域での撮影についてのバックアップ
 - ・撮影所はじめロケに関する情報の提供・撮影許可申請についての協力
 - ・府内外のフィルムコミッションとの連携
 - 人材育成プログラムの企画・開催、協力
 - ・「京都映画・映像企画市」の企画開催
 - ・KYOTO Cross Media Experienceへの協力 など

京都映画・映像企画市

未来の映画・映像作家をめざす若者を対象に「京都府内での撮影」「時代劇を中心とした歴史作品」の企画を募集し、業界の第一線で活躍する監督やプロデューサー、関係者が応募作品を評価するワークショップを開催しました。併せて評価者によるパネルディスカッション(テーマ：映画のまち 京都の魅力)を行った。



開催期間：2010年2月13日(土)、14日(日)
会場：松竹京都撮影所、東映京都撮影所
主催：京都府、VIPO京都事務所
共催：太秦フェスティバル実行委員会

平成21年度幹事理事会・理事会

開催日時：2009年6月1日(月) 午後4時00分より
場 所：銀座フェニックスプラザ 紙パルプ会館 3階会議室
(東京都中央区)

議 案：【決議事項】第1号議案 副理事長選任の件、第2号議案 財団法人JKA補助金申請の件 【総会に付議すべき事項】第1号議案 平成20年度の事業報告の件、第2号議案 平成20年度の会計報告の件、第3号議案 平成21年度事業計画書の件、第4号議案 平成21年度予算案の件、第5号議案 役員選任の件、第6号議案 京都事務所開設の件、第7号議案 平成21年度政策検討委員会運営の件、第8号議案 一般管理費について

※理事会に先立ち幹事理事会が同日午後3時より開催された

平成21年度通常総会

開催日時：2009年6月16日(火)
午後4時～5時

場 所：東京会館 11階 ゴールドルーム
(東京都千代田区)

議 案：【決議事項】第1号議案 平成20年度の事業報告の件、第2号議案 平成20年度の会計収支報告の件、第3号議案 平成21年度事業計画書の件、第4号議案 平成21年度予算案の件、第5号議案 役員選任の件、第6号議案 京都事務所開設の件、第7号議案 平成21年度政策検討委員会運営の件、第8号議案 一般管理費について

※総会終了後、午後5時より同会場にて、懇親会を開催



平成21年度幹事理事会・理事会

開催日時：2009年11月30日(月) 午後5時より
場 所：銀座フェニックスプラザ 紙パルプ会館 3階会議室
(東京都中央区)

議 案：【決議事項】第1号議案 理事の退任、選任の件
第2号議案 大阪事務所移転の件 【報告事項】①平成21年度事業の進捗報告、
②平成21年度政策検討委員会本会及び、分科会の進捗報告
※理事会に先立ち幹事理事会が同日午後4時より同会館会議室6にて開催された

平成21年度幹事理事会

開催日時：2010年3月29日(月) 午後3時30分より
場 所：銀座フェニックスプラザ 紙パルプ会館 3階会議室
(東京都中央区)

議 案：【報告及び審議事項】①平成21年度政策検討委員会本会及び分科会の報告、②平成21年度事業の報告、③平成22年度事業計画及び予算案、④その他

事業仕分け予算事業について経済産業省に意見書提出

VIPOは、2009年12月に、経済産業省に「経済産業省の予算事業に関するご意見の募集」について意見書を提出。これは、平成22年度予算要求事業について政府行政刷新会議において「事業仕分け」が実施され、「コンテンツ産業強化対策支援事業」がその対象となったことを受けてのものとなる。

VIPOホームページに「【要約版】平成22年度予算要求事業「コンテンツ産業強化対策支援事業」に関する意見について」を掲載 ↓
http://www.vipo.or.jp/ja/pdf/news_release/press091210-1.pdf

平成21年度事業報告 (平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)

1. 事業の経過

平成21年6月16日におきまして開催いたしました、平成21年度通常総会でご承認いただいた今年度の事業計画書、会計収支予算書に基づき、人材育成支援、内外の市場開拓等に関する事業を実施しております。具体的には、日本の各分野におけるコンテンツを相互に連携させて世界に向けて発信し、世界中のコンテンツ関係者が一度に日本の数多くのコンテンツに触れる機会を提供する3年目のJAPAN国際コンテンツフェスティバル(コ・フェスタ)の運営等を、関係省庁、団体、教育機関と連携し取り組んでおります。

2. 主な事業の実施状況 (※項目抜粋)

(総事業費概算 8億4000万円) ※税込

(1) 人材育成事業

- ① インターンシップの実施(自主事業)
- ② 短編映画作品製作による若手映画作家の育成(文化庁 1億2000万)
- ③ コンテンツ業界を目指す学生に対する就職セミナーの実施(自主事業 50万円)
- ④ 京都映画・映像企画市(京都府 90万円)
- ⑤ シナリオアナリストセミナー(自主事業)

(2) 国内・国際市場整備

- ① JAPAN国際コンテンツフェスティバル(コ・フェスタ)の運営。平成21年度コンテンツ国際取引市場強化事業(経済産業省 2億8400万円)
- ② JAPAN国際コンテンツフェスティバル(コ・フェスタ)にかかるソフトパワー海外展開促進事業。平成21年度創造産業国際展開支援事業(経済産業省 3億6000万円)
- ③ コンテンツポータルサイトの運営(コンテンツポータルサイト運営協議会会費 1300万円)
- ④ 京都フィルムコミッション推進事業(京都府 1000万円)
- ⑤ アジアにおける日本映画上映事業(文化庁 5000万円)
- ⑥ 釜山国際映画祭でのジャパンレセプション(文化庁・ユニジャパン 180万円)

(3) 普及・啓発

- ① 歴史的音盤SP盤アーカイブの実施(歴史的音盤アーカイブ推進協議会)
- ② 田辺・弁慶映画祭イベントシンポジウムの開催(大阪市難波市民学習センター)

(4) 海外の同様の機関との連携・交流に係る事業

- ① 韓国KOCCAとの業務提携
- ② 韓国KOFICとの業務提携

(5) その他の事業

- ① AFI(American Film Institute)への留学斡旋の実施
- ② VIPOホームページの運営

(6) 組織運営

- ① 京都事務所
 - ② 会員
 - ③ 通常総会、理事会、幹事理事会の開催
 - ④ 政策検討委員会 本会、各分科会
- [全文は下記ホームページに掲載 ↓]

<http://www.vipo.or.jp/ja/about/report.php>

VIPO公式ホームページでは当機構がミッションとして掲げるゲーム、アニメーション、映画、放送、音楽などのコンテンツ産業に関わるキーパーソンへの長編インタビューを経営者サイドの方中心の会員専用ページと、クリエイター、プロデューサーサイドの方中心の一般ページにわけて展開。業務内容、ヒットの裏側、

人材、今後の展望などについて聞いた内容の一部を紹介。会員専用ページにおいては主に経営者サイドの方に、一般ページではクリエイター、プロデューサーサイドの方に主に話を伺っている。

※2008年HPリニューアル後のインタビュー、会員・一般共にインタビュー順に掲載。情報・内容については基本的にはHP掲載時のもの。

株式会社フジテレビジョン 取締役編成制作局長 **鈴木克明氏** 会員専用
(2008年9月～11月HPに公開)

1958年7月生まれ、慶應義塾大学文学部卒業／フジテレビジョン入社後報道局報道センターに在りながら「めざましテレビ」を立ち上げる。報道制作本部生活情報局を経て編成制作局に異動、2007年6月～取締役編成制作局長、1994年6月～2002年6月めざましテレビチーフプロデューサー



—ヒットするモノづくりのできるプロデューサーには何が重要だと思いますか？

プロデューサーも100人いれば100通りの考え方があり、どれが正解でどれが間違っているとはいえないと思います。ただ、テレビの場合は視聴率という数字で優劣は決まってくる。「めざましテレビ」立ち上げ時の世の中のライフスタイルの変化については僕が肌で感じたことであり、他人からセミナーか何かで講義を受けて聞いていたらひょっとしたら頭に入っていなかったかもしれません。(省略)机に座って報告書を読むよりも、いかに世の中の動きを自分自身が体験や感覚で感じ取っているかが僕にとっては重要です。(省略)肌で感じたことを実際の企画におとしこみ、数字＝視聴率につなげていくには、それなりのモチベーションの高さ、やる気の維持が必要です。

—やる気を維持するというのは簡単ではない場合もありますか？

創造には源が必要であり、「感性」を磨くということは至極大切なことです。テレビ番組を作っているからといっていいテレビ番組を見ようというだけでなく、いい映画を観て、いい音楽を聴いて、いい絵を見て、いい本を見て、とにかくいいものを見て、おいしいものを食べて、という毎日の生活が大事。食欲に吸収し、自分の中で感性に換えていく作業をなささい、と若い人には常々いっています。(省略)僕は365日視聴率のことを考えていて、私生活と仕事がかきついてもきれないような立場にありますし、それは苦痛ではありません。いい仕事をするためにいいものに溢れた毎日を送ろう、と考えると毎日が楽しくなってくる。感性とは育ってきた環境、生まれた環境やどういう人生を送ってきたかがベースにあり、その人自身の人生の20数年、30数年の集積であるといってもいいでしょう。

角川シネプレックス株式会社 代表取締役社長 **北尾知道氏** 会員専用
(2009年3月・4月HPに公開)

1958年4月7日生まれ、鳥取県出身、東京大学大学院工学系修士課程修了／株式会社セゾンコーポレーション、西友を経て角川映画株式会社入社、2008年3月～角川シネプレックス株式会社 代表取締役社長 (2009年4月7日インタビュー掲載時)、角川映画株式会社 代表取締役専務



—こういう人といっしょに仕事をしたい、というのがありますか？

管理する立場として自分にはないものを持っている人を大切に、そういう人といっしょに仕事をすることで自分も成長していきたいと思っています。

私自身が幅広く色々なことに興味をもつ方なので、専門特化、1つのことを突き詰めている人と、

一途で妥協しない姿勢を貫いている人、頑固で協調性がないくらいの人といっしょにやるのはおもしろいと思っています。そういう人にうまく任せるとか仲間に入れてもらえれば、そこで強みを発揮し、自分のできないことをやってくれるのではないかと期待します。結局、色々言っていますが(笑)、物事に対し、積極的に前向きに取り組める人、前向き意識を共有できる人がいいですね。物事を斜めに見だすと何でも否定的、消極的になってしまう傾向がありますから。物事を明るく捉えられる楽観的な姿勢というのは仕事をする上では必要ですね。(省略)

—今は会社経営においてはどのような時期だとお考えですか？

今は夜明け前で一番暗いときです(笑)ただ夜明け前はチャンスだとも思っています。未曾有の不景気、百年に一度の経済危機といわれますが、こういうときこそチャンスだと思うのです。

今までだったら、順調にいってれば上位にきているものがそのままいくでしょうし、下位はいくら頑張っても追いつけないままかもしれない。この混沌状況により、そういった絶対的構造が大きく変わる可能性がでてくるはずですよ。

お金も使いにくいし、新しいことにチャレンジしにくい、そういう厳しい状況だからしょうがないでしょ、と閉じこもらず、発想を大事にし、実行するための戦術を練って、乾坤一擲、総動員で何かに挑んでいく好契機だと受けとめています。

有限会社ジャパンスタイルシステム代表 **川邊祐之亮氏** 会員専用
(※当機構HP、事業案内画像担当 2008年11月・12月にHP公開)



—発想のヒントとは何ですか？

欧米の知識層、見聞が広い方は日本の文化をクールだという認識があります。友禅に代表されるような和柄を、“懐かしい”市場ではなく、“クール”市場で受け入れられるものに昇華させることを目標にしています。(省略)

—海外に日本の伝統、川邊さんのもつコンテンツを紹介するという活動で意識されていることは？

どういう国籍をもつ人たちであれ、元は人間というところはぶれないと思います。うれしい、悲しいという感情は同じではないかと思いますが、それぞれの風土の中で感じたり、感情に沿った行動をしているのがポイントではないでしょうか。海外の展示会でエルメスやウェジウッドのブースで菊をモチーフにしたデザインに欧米人が関心を示し「美しい」と褒めてくれました。ただし、「非常に美しいが、この植物は自国にはないし、知らないし、使えないのでこれを見てヨーロッパで感動する人は少ない。むしろないかもしれない」ということでした。理由を訊くと「パンジー、チューリップで僕たちは故郷を思いうかべ、例えば母が学校から家に帰ると庭に植えていた、とか、居間に飾っていたとかいうので郷愁をそそられる。あなたの菊は美しく、エキゾチックとは思いますがそれ以上の感情、要求はおこらない」というのです。一見目をひき、美しい、かわいい、エキゾチックとなるのは、表面だけの日本文化で満足する人たちであり、物事をわかっている人たちには小手先では通用しない。海外の展示会ではそういったことを感じる機会に幾度も出くわりました。

1965年、京都の友禅工房に生まれる。友禅染作家、グラフィックデザイナー、同志社大学大学院ビジネス研究科伝統産業グローバル革新塾招聘講師

東映アニメーション株式会社
TVアニメーション「ドラゴンボール改」プロデューサー

おぼろこへい
小原康平氏
(2009年4月・5月HPに公開)

1982年1月生まれ、慶應義塾大学法学部卒業／2005年4月東映アニメーション株式会社入社、企画営業本部 企画部 テレビ室 プロデューサー、TVアニメーション「ドラゴンボール改」プロデューサー



一日本アニメの海外マーケット進出についてお聞かせ下さい。

原則的には、日本で製作するのであれば、海外へといきなり飛躍するのではなく日本での成功を前提とすべきだと思います。日本の市場を度外視して海外のみを目指すことに対しては否定的な認識です。もちろん例外はありますが、ビジネスとしてのアニメーションがシリーズを通して海外でも成功するためには日本でどれくらい売れたかというデータがないと売りに出しても買い手が付きません。日本のアニメ作品の絵柄、キャラクター構成、構想は海外でももちろん人気がありますが、(省略)ギャグや微妙なセリフ回しなども文化的要素で問題が出てくる場合が多いです。そういった要素を無視するくらいぶっぎりにおもしろい、文化的ギャップを押しつけてでも海外で売れる強いアニメ作品というのが作ればいいのですが、そういった作品は稀です。因みに、海外でよくやられているのが、日本のアイデアの部分だけ取り出し、絵柄もある程度日本のものに近づけて、作品のプラットフォームを自国の文化に置いて自国発のアニメーションをヒットさせる、というケースです。弊社でいえば「ふたりはプリキュア」などの変身モノの女兒向けアニメなどにヒントを得た作品もしばしば見られ、欧米で人気を博しているケースもあります。真にこういった作品と競合していくには、このような問題をどう製作的に解決し、踏み込んでいくかを考えていかなければならないのではないのでしょうか。

株式会社アールグレイフィルム プロデューサー

たにひろあき
谷口広樹氏
(2009年8月HPに公開)

1976年5月生まれ、大阪府豊中市出身、早稲田大学社会科学部卒業／2004年映画業界に入る。2008年株式会社アールグレイフィルム入社／「花婿は18歳」[カフェ・ソウル] プロデューサー



—2008年12月に韓国映画振興委員会と当機構共催の「日韓共同制作セミナー」に参加された目的は？

課題としてもっていたのは海外との合作についてどうしていくべきか、ということでした。合作の場合2、3年かかって結局できなかったとか、完成はしたもののテーマや方向性的なブームが終わった2年後だったというようなケースが多いので、もう少し低予算で合作ができるのではないかと考えていました。合作について疑問に思っている点や手法などについてベテランのプロデューサーの方々にアドバイスを戴けるのはありがたかったです。

—日本と韓国の撮影スタイルは他にどう違いましたか？

スタイルが違うので摩擦はあったと思います。日本人なら、この制作費でこの期間なら山のシーンはこういう風にとったら期間も予算もおさまるよね、という意識なんです。韓国スタッフはとりあえず全部おさえておくというようなやり方なんです。後で編集しようとしても、制作期間も鑑みず青森に行っちゃったり(笑)。(省略)日本と韓国のバジェットと期間の違いは大きく、撮影スタイルの違いに大きく影響しています。アメリカと韓国の撮影スタイルというのは近いような気がします。日本の撮影では限定された期間で撮り上げてしまうというのに長けていますね。「カフェ・ソウル」の撮影自体はスムーズだったとは言えませんが、「力道山」で日韓合作の現場を1回経験していて、どんなことが摩擦や行き違いになるか、というのは見ていたので、何かおこっても「あーあー」予想通りだな、という範囲ではありました。「力道山」のときは日韓合作もまだ少ない時代で、そのときはみんな慣れない部分が多かったのではないかと思います。

たけまさひろ
映画監督 武正晴

(2009年8月HPに公開)

1967年生まれ、明治大学卒業後、映画業界の道に進む。井筒和幸監督等ベテラン監督達に師事し、「ボーイ・ミーツ・プサン」(06)で監督デビュー。「花婿は18歳」[カフェ・ソウル] 監督



一日韓の撮影において驚いたこと、いつもと違ってあるな、と感じたことは？

まずは日韓合作ということでスタッフが通常の現場より多く、2週間という時間のない中で、感覚の違うスタッフ同士が力を合わせて1つのものを作っている点です。

日本の撮影現場と比較すると韓国のスタッフは監督に対してもあくまで監督主義というか、あくまで監督の意向によって動きます。日本の場合は、監督の意向をある程度理解して自ら動くスタッフが多い気がします。韓国の人たちは、のんびりしていてもおだやか。通常は撮影日数も日本の数倍というのものもあるかもしれません。撮影に入った当初僕なんか大声で、しかも韓国人にわからない言葉で怒鳴るから、非常に怖がらせてしまいました。獰猛な民族だと思われたに違いありません。韓国側のスタッフから「大声で怒鳴るのはやめてほしい」といわれて日本人の、日本の現場の荒々しさに気づきました。

ロケ地としては今までさまざまな国でロケに関わった事があり、フィリピンでは撮影中に銃で撃たれそうになったり、他の国でもそれに匹敵するようなこともありました。

韓国ではそういった危険なことはなかったですね。以前釜山ロケを行った「ボーイ・ミーツ・プサン」のときもそうでしたが日本には近い感覚でやりやすかったです。ただし、日本との歴史を振り返って精神的な緊張感も一部ありました。

株式会社スクウェア・エニックス
ドラゴンクエストシリーズエグゼクティブプロデューサー

みやけゆう
三宅有氏
(2009年9月HPに公開)

1967年生まれ、北海道出身、1990年スクウェア・エニックス入社／主な担当作品「ドラゴンクエストVIII」以降の全ドラゴンクエストシリーズ作品における、エグゼクティブプロデューサー



—ドラゴンクエストシリーズに関わったのはいつからですか？

ドラゴンクエストに関わりだしたのは10年前です。その前に、私が28,9歳の頃に出版の部署からソフトの開発の部署に移り、そこでゲームソフトを2、3本作りました。まったく売れなくて、当社で最低販売本数記録保持者です、といわれてしばらく過ごしましたが(笑)。

—売れなかったことについてどうお考えになりましたか？

映画、本などもそうですがゲームソフトは当たり外れがあるものです。蓋を開けてみないとわからない怖さはあると思います。売れないということは、会社に対してはもちろん、開発したスタッフの皆さんへの責任も果たせなかったということなんです。そういう認識を持つと同時に、「失敗した」「売れなかった」ということを実感として持っていることがすごく大事だと思います。売れないということは本当に怖い。それを回避するために必死でものを作ったりするわけで、「売れない怖さ」を知らないでいると認識がいつまでたっても甘いままだと思います。初めに「売れない」というのを経験しておけてよかったな、と思います。

—何か意識が変わられましたか？

仕事についての目的がはっきりした感じでした。(省略)プロデューサーといっても、当時はただの若造で、いいものを作ればいいのか、わかっている人に認められればいいのか、一部の人に称賛されればいいのか、そういう甘い部分があったと思います。(省略)「売れなきゃ物事は始まらない」、「商品を作る以上は売れないと誰も幸せにならない」とプロデューサーとして担当したゲームがなぜ売れなかったのか、真剣に考えました。

VIPOでは、2006年度、2007年度、(2008年度一部調査)、2009年度にわたって、映像産業における「映像産業の雇用と人材に関するアンケート」調査を行っている。

調査概要	
調査目的	メディア・映像コンテンツ業界の人事・採用活性化のため調査を実施。
調査方法	映像産業の雇用と人材に関するアンケートを配送、郵便またはFAXにて返信を依頼。
調査対象	映画、テレビ、音楽、ゲーム、アニメ、CM、インターネットなど映像に関連する企業約1,000社を対象。
調査期間	2010年1月26日(火)～2月8日(日)
回収結果	有効回答：116社

映画や放送番組、CMクリップ制作等の映像産業全般、もう少し広く関連産業を含めて、インターネット関係なども含めて、コンテンツ産業としてみた場合、市場規模約14兆円、従業員数約27万人規模の分野*となる。一般に映像産業分野への就職は、

- 学生人気の高い産業であること。
- 業界内大手企業と小規模零細企業の2極性。
- 映像業界の大手といえど、全産業のなかでは決して大きな方の大企業ではないため、数百人規模での毎年の採用を行う企業は存在していないこと。

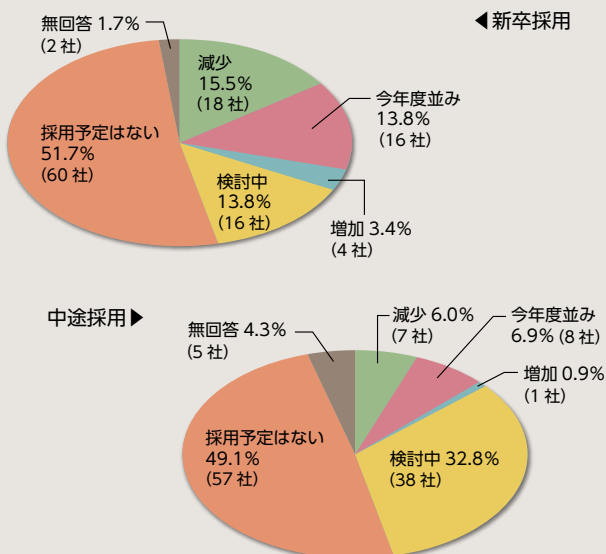
という特徴を有している。従ってこれらが相まって、雇用の需給の関係でいえば、長年、数の面においては、労働供給の超過状態の分野である。

さらに映像製作における一般的なビジネス・プロセス（企画開発→プリプロダクション→プロダクション・マネジメント→制作→ポストプロダクション→マーケティング、流通・公開）において、圧倒的に産業界からの人材要望の強い分野が「制作」プロセスであることは、旧来どおり、今年度の調査においても変わらなかった。

不況の影響の顕在化

おそらくはマクロ景気動向からの影響であるが、人件費となって表面化しやすい人事政策項目（例えば社外の教育研修期間の利用や、新規採用の拡大、採用、等）は、過年度に比べて、消極化している。

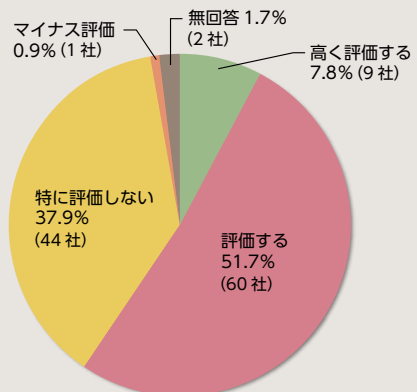
Q7. 来年度の採用に関する見通しをお聞かせください。
(調査数：116社)



実施すれば評価が高まるインターンシップ

現在インターンシップを受け入れているのは、調査サンプルの約3割の事業者であった。インターンの受入れ自体も、左記の不況の影響からか、減る減少が見られるが、しかしインターンシップを実施している回答者群のなかでは、逆にインターンシップ活動の評価は過年度より高まっている。インターンシップが人材育成における産学連携のフロンティアであることを考えれば、その理解が進むことが望ましいと考えられる。

Q13. 採用時に学生のインターンシップ経験を評価しますか。
(調査数：116社)



*出典「映像産業人材ニーズ調査報告書 2009」より

※経済産業省「平成20年特定サービス産業実態調査」に基づき、VIPOの活動や会員社の活動に関連深いいくつかの業種の従業員数および年間売上の合算値である。

2009年	4月 ● 20日	JAPAN国際コンテンツフェスティバル 2009 (愛称コ・フェスタ) 開催決定
	5月 ● 7日	「ジャパン・コンテンツ・ショーケース」HPを全面刷新
	● 14日	『ザ・ムーヴィビジネスブック 第3版』日本語版出版記念セミナー
	● 26日～ 6月26日	ndjc：若手映画作家育成プロジェクト 作家の公募
	6月 ● 1日	平成21年度幹事理事会・理事会
	● 1日～ 5日	2009年日本放送映像コンテンツグローバルマーケティングセミナー
	● 16日	平成21年度通常総会
	7月 ● 1日	VIPO京都事務所開所
	● 14日～	2009年度インターンシップ受け入れ先企業募集
	● 14日～ 17日	日韓ビジネスキャンパス2009 in 済州島 (日韓共同製作セミナー)
	● 26日～ 8月 9日	ndjc：若手映画作家育成プロジェクト ワークショップを実施
	9月 ● 24日～10月28日	JAPAN国際コンテンツフェスティバル 2009 (愛称コ・フェスタ) 開催
	● 27日、10月10日・11日	メディア・コンテンツ業界就職セミナー
	● 9月～ 1月	ndjc：若手映画作家育成プロジェクト 製作実地研修
	10月 ● 1日・8日・15日・29日 11月 5日・12日	人材育成基盤セミナーシリーズ#2「シナリオアナリスト養成セミナー」(2009年10月期)
	● 12日	第14回 釜山国際映画祭「ジャパンレセプション」
	● 27日・28日	メディア・コンテンツ業界就職セミナー (大阪)
	● 29日～11月11日	AFI CONSERVATORY 2010-2011 留学推薦者募集
	11月 ● 11日～15日	第6回韓国 日本映画上映
● 30日	平成21年度幹事理事会・理事会	
12月 ●	VIPO、事業仕分けに対する意見書提出	
2010年	1月 ● 15日～17日	「2010年トルコにおける日本年」記念「日本映画祭ニューシネマ2010」
	2月 ● 13日・14日	京都映画・映像企画市
	● 18日	「シナリオアナリスト養成セミナー」(2009年10月期)シナリオアナリスト認定式
	● 2月～ 3月	ndjc：若手映画作家育成プロジェクト 合評上映会・講評会
	3月 ● 23日	キャラクターメイキング&アナリスト養成セミナー(導入編)
	● 29日	平成21年度幹事理事会
	● 30日	韓国コンテンツ振興団体 全羅南道文化産業振興院 (JCIA) と業務提携
	● 通 年	政策検討委員会

【法人会員】

株式会社秋田放送
 株式会社アサツーディ・ケイ
 アップルジャパン株式会社
 アメリカン・モーション・ピクチャー・
 アソシエーション・オブ・ジャパン
 伊藤忠商事株式会社
 株式会社IMAGICA
 一般社団法人映画産業団体連合会
 映画専門大学院大学
 社団法人衛星放送協会
 社団法人映像文化製作者連盟
 エイベックス・エンタテインメント株式会社
 株式会社エスピーオー
 株式会社NHKエンタープライズ
 大蔵映画株式会社
 社団法人外国映画輸入配給協会
 角川映画株式会社
 株式会社角川書店
 株式会社カプコン
 関西テレビ放送株式会社
 株式会社キネマ旬報社
 株式会社木下工務店
 ギャガ株式会社
 キヤノン株式会社
 キングレコード株式会社
 株式会社クオラス
 株式会社クリーク・アンド・リバー社
 株式会社コーエー
 コダック株式会社
 駒澤大学グローバル・メディア・スタディーズ学部
 コロムビアミュージックエンタテインメント株式会社
 コンテンツゲート株式会社
 社団法人コンピュータエンターテインメント協会
 埼玉県彩の国ビジュアルプラザ
 株式会社ジュピターテレコム
 松竹株式会社
 株式会社シンク
 株式会社スクウェア・エニックス・ホールディングス
 住友商事株式会社
 セガサミーホールディングス株式会社
 全国興行生活衛生同業組合連合会
 社団法人全日本テレビ番組製作社連盟
 ソニーPCL株式会社
 株式会社第一興商
 株式会社第一通信社
 高津装飾美術株式会社
 株式会社タカラトミー
 株式会社チャンネルN
 株式会社円谷プロダクション
 株式会社ティーワイリミテッド
 株式会社テイチクエンタテインメント
 株式会社デジタルSKIPステーション
 株式会社手塚プロダクション
 株式会社テレビ朝日
 テレビ大阪株式会社
 株式会社テレビ東京
 株式会社電通
 東映株式会社
 東映アニメーション株式会社

株式会社東京現像所
 東京テアトル株式会社
 株式会社TBSテレビ
 東宝株式会社
 東宝東和株式会社
 株式会社東北新社
 株式会社徳間ジャパンコミュニケーションズ
 株式会社ドリーミュージック
 中日本興業株式会社
 名古屋テレビ放送株式会社
 日活株式会社
 株式会社日経BP
 協同組合日本映画製作者協会
 一般社団法人日本映画製作者連盟
 社団法人日本映画テレビ技術協会
 社団法人日本映像ソフト協会
 日本テレビ放送網株式会社
 一般社団法人日本動画協会
 社団法人日本ポストプロダクション協会
 社団法人日本民間放送連盟
 一般社団法人日本レコード協会
 株式会社博報堂
 株式会社バップ
 株式会社パノラマ
 ぴあ株式会社
 ピクチャーエンタテインメント株式会社
 株式会社ヒューマックスシネマ
 株式会社フォーライフミュージックエンタテイメント
 株式会社フジテレビジョン
 富士フイルム株式会社
 ブロードメディア・スタジオ株式会社
 報映産業株式会社
 ホクエツ印刷株式会社
 株式会社ポニーキャニオン
 株式会社ホリプロ
 三井物産株式会社
 三菱商事株式会社
 武蔵野興業株式会社
 ユニバーサル ミュージック合同会社
 吉本興業株式会社
 琉球朝日放送株式会社
 琉球放送株式会社
 株式会社ワーナーミュージック・ジャパン
 株式会社WOWOW
 早稲田大学国際情報通信研究センター

【賛助会員】

ウシオ電機株式会社
 片倉工業株式会社
 株式会社きんでん東京本社
 スカパー JSAT 株式会社
 ソニー株式会社
 高砂熟学工業株式会社
 株式会社東芝
 トヨタ自動車株式会社
 日本電信電話株式会社
 パナソニック株式会社
 株式会社みずほコーポレート銀行
 三井不動産株式会社
 森ビル株式会社

※個人会員制度有(五十音順) 2010年3月31日現在

特定非営利活動法人(NPO法人) 映像産業振興機構

〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル8F
 TEL:03-3543-7531 FAX:03-3543-7533 <http://www.vipo.or.jp/>

京都事務所

〒616-8163 京都府京都市右京区太秦西蜂岡町9
 TEL&FAX: 075-862-8091

編集・発行: NPO法人 映像産業振興機構 2010年5月31日発行